無料
ご自由にお持ち帰り下さい

平和で豊かな沖縄県を目指す情報誌

沖縄協会だより

2021.11
No.21

平和の絵ー「戦争と平和」

20点連作ー第12作

西村計雄 作

地底の神秘

300号
174.8×304×6.5 ㎝

沖縄平和祈念堂
所蔵絵画紹介

〈制作意図〉

ひんやりとした鍾乳洞の中、そこには外の世界から隔絶された妖しいまでの自然がおりなす造形美がある。明るい光があてられた瞬間、眠りから醒めた鍾乳石は、七色の光を放って乱舞し、夢幻の世界にいざない、やすらぎを与えてくれる。沖縄にはこのような多くの鍾乳洞がある。

西村計雄（明治42年・北海道生まれ）

東京美術学校卒、藤島武二に師事。1943年文展（現・日展）特選。戦後早稲田中学校と高等学校の教師を勤め、51年に42歳で単身渡仏する。ピカソの画商カーンワイラー氏との出会いを契機に、53年よりパリを中心にヨーロッパ各地で個展を開催。その作品は、フランス国立近代美術館やパリ市美術館に買い上げとなった。フランス芸術文化勲章、共和町立西村計雄記念美術館開館。
2000年12月4日没。

沖縄協会は、沖縄が本土に復帰するまでの間、各種の援護活動を行った特殊法人南方同胞援護会（昭和31年～47年5月）の後を受けて、昭和47年9月20日に設置された内閣府所管の公益法人です。新たに設立した財団法人沖縄協会は、南方同胞援護会の実績と経験を活用して、沖縄の振興施策に積極的に協力し、平和で豊かな沖縄県の建設に寄与してまいりました。平成23年（2011）4月1日、沖縄協会は内閣総理大臣より公益財団法人として認定を受けて「公益財団法人沖縄協会」として新たな一歩を踏み出しました。これからも、沖縄県の健全な発展と幸福な社会形成に役立つ事業を行いながら、沖縄平和祈念堂を管理運営することで、平和で豊かな沖縄県の建設に貢献していきます。

公益財団法人 沖縄協会

93歳のお袋との里帰り沖縄旅行

新垣　進（しんがき　すすむ）　一般社団法人関東沖縄経営者協会第9代目会長

今から11年前、当時93歳のお袋と2人で4泊5日で沖縄に行ったんだ。私は子供のころから散々心配かけたからそのお詫びを兼ねて親孝行のつもりでね。懐かしい思い出ですね。お袋にとっては70代のころ以来の沖縄。もう2度と故郷には帰れないと思っていたみたいでとても喜んでくれた。外では車椅子に頼るお袋だったけど、那覇空港に降り立った時の顔はとても目が輝いて嬉しそうで今でも忘れられないよ。

初日は国際通り沿いのホテルに宿泊し、その翌日にお袋の生まれ故郷の東風平（今の八重瀬町）に行ったんだ。その日は東風平公園で町内会の運動会が開かれていて、お袋は「もう私のことを知ってる人はあまり生きてないよ」と少し躊躇しながらも車椅子で参加したんだ。そしたらなんと開会式で町内会長から「皆さん、本日の運動会に東風平出身の新垣菊さんと息子さんが神奈川県川崎市からはるばる故郷の東風平に帰ってきました」と突然紹介されてびっくり。参加者全員の割れんばかりの拍手にはさらにびっくり！。お袋はとてもはにかみながらも、すごく嬉しそうに皆に手を振って深々とお辞儀してた。運動会が始まってからもお袋の周りにはひっきりなしに人が寄ってきてね、閉会までずっと人だかりだったよ。とても暑かったけどね（笑）びっくりしたのは、お袋と親友だった人が認知症で話ができないのに、ず～っと、しゃべりもせずお袋の隣から離れないで、にこやかな顔をしてるんだよ。認知症になっていてもお袋のことは忘れてないんだね。

お袋の実家は食料品店をやっていて、若いころお袋は明るい性格もあって人気の看板娘だったみたいだね。面白かったのは本土では高齢と言われる70代と思われる方々がお袋をみつけて「菊姉さん、菊姉さん！」と、子供が大人に甘えるような笑顔を浮かべて集まってくるんだよ。遠い昔にタイムスリップしたような、その光景を見てお袋を故郷に連れてきてよかったなとしみじみ思ったよ。

運動会の翌日は平和祈念公園に行ったんだ。平和の礎に刻んであるお袋の父母と姉の名前の前で手を合わせお袋は「お父さんお母さん姉さん、菊だよ帰ってきたよ」と涙ぐみながらつぶやくんだよ。その後ろ姿に私も涙が止まらなくなったね。

この平和の礎にはあの戦争で亡くなった約24万人の名前が刻まれているんだよね。とても身近な人が無念の気持ちで亡くなったんだと思うと、涙が止まらなくなったよ。天を仰いで「神様、ここに眠る人たちの子や孫の未来には3倍のツキをあげてください。」と思わず願ってしまったよ。

あの戦争で物凄い痛みを味わった沖縄県民は今日までよく頑張ったと思う。今こうしてたくさんの人が沖縄ファンになるまで本当にがんばったと思います。

沖縄県民万歳、亡くなったお袋万歳。

平和の礎と沖縄平和祈念堂

沖縄平和祈念堂内に安置されている沖縄平和祈念像の胎内には「平和の礎」刻銘者名簿が納められています。
また、祈念堂内にて同名簿を閲覧することができます。
開館時間は9時から17時まで。

川崎と沖縄

●..˙˙..˙˙..˙ 今、注目を集めている 神奈川県川崎市と沖縄の友好の歴史 を紹介します ˙..˙˙..●

大正13年

・川崎沖縄県人会発足　川崎市内にあった紡績工場に沖縄から多くの人々が就職し、川崎市民として生活するようになりました。

昭和33年

・川崎市民公民館で「沖縄と小笠原の夕」開催

沖縄と小笠原の夕
三月廿三日 川崎市公民館で
引続き主要都市で開催

「沖縄と小笠原」第45号（昭和33年3月25日発行）の記事（抜粋）
3月23日、南方同胞援護会と神奈川新聞社の共同主催のもと「沖縄と小笠原の夕」を開催。
内山神奈川県知事の挨拶があり、沖縄、小笠原の同胞を激励して熱弁をふるった。愛知大学教授入江啓四郎氏が「国際情勢と沖縄」の題下に豊富な資料と広い視野に立って沖縄の国際的地位と現状について講演すれば、真剣に耳を傾ける聴衆の中から拍手が沸き立った。第二部の沖縄舞踊は川崎市教育委員会の古江亮仁氏が解説し、川崎沖縄芸能研究会の面々が「若衆節」ほか十数種を披露した。入場者は１千人を超えた。

昭和38年

・沖縄青少年川崎会館開所　南方同胞援護会が川崎市藤崎町（当時の住所表記）に沖縄青少年川崎会館を建設しました。

昭和45年

・川崎駅前に石敢當設置

昭和34年、41年と相次いで大型台風が沖縄県宮古島付近を直撃し、甚大な被害を受けました。窮状を知った川崎市民から義援金が寄せられ、この返礼として贈られた石敢當（魔除の石碑）が川崎駅東口に設置されました。

令和4年

・NHK連続テレビ小説『ちむどんどん』

沖縄の本土復帰50周年を記念して令和4年5月から放送予定のNHK連続テレビ小説第106作「ちむどんどん」は、沖縄本島北部と川崎市を舞台としています。

トピックス

★立正佼成会・リモート平和学習

7月25日、立正佼成会・二教区同時によるリモート平和学習が行われた。二教区それぞれの開催名は、西日本教区「リモート平和学習」、中京支教区「高校生の翼」。リモート配信には中京支教区の横山元一さん、福井康太さん、増田真一さんが来堂し、沖縄平和祈念像の前でプログラムに沿って平和学習を進め、その模様をウェブカメラで撮影し配信した。中京教区では400人がリモートに参加した。最後は戦没者慰霊と恒久平和の祈りを込めて平和の鐘を献鐘し、摩文仁の丘にひろがる鐘の響きとともに平和学習を終えた。

★沖縄ファンクラブ来堂

10月1日、沖縄が大好きな本土出身者でつくる沖縄ファンクラブ（大澤真会長）の舩木宏祐常務理事一行が平和祈念堂及び付属の「清ら蝶園」を訪れた。一行は平和祈念堂にて戦没者の慰霊と平和祈願のオオゴマダラの放蝶を行った。

また、一行は「清ら蝶園」で当協会新垣昌頼専務理事から蝶園の現在の状況とオオゴマダラの説明を受けた。これまで同クラブ皆様から、2006年にオオゴマダラの食草「ホウライカガミ」70鉢の寄贈、2008年には清ら蝶園支援金の贈呈をいただいている。

★那覇ジュニアオーケストラ合同演奏の撮影

10月24日、那覇ジュニアオーケストラ（19人）が、ハワイの小中高生交響楽団「ハワイユースシンフォニー」他国内のジュニアオーケストラと映像で合同演奏するため、その演奏撮影に来堂した。この合同演奏は、ハワイユースシンフォニーとハワイ州と姉妹都市提携を締結している1道4県（北海道・愛媛・広島・福岡・沖縄）の6つのジュニアオーケストラが映像で合同演奏し、音楽を通じて世界平和と1日も早い新型コロナウイルスの終息を祈念して、継続的な若年層の相互交流を図ることが目的。この合同演奏の様子はハワイのテレビ局「Hawaii News Now」の特別番組枠にて12月7日と9日に放送予定。なお、那覇ジュニアオーケストラは一般社団法人琉球フィルハーモニック（上原正弘代表理事）が運営している。

協会関係事業他 募集案内など

★2021年度 勉学支援生の決定

7月、当協会が実施している「沖縄青少年勉学支援事業」(6月30日応募締切)の審査委員会を書面により行った。

厳正慎重な審査の結果、6人を新規の勉学支援生にすることを決定した。本年度の勉学支援生は前年度からの継続者4人を加え、合計10人。一人あたり年額60,000円の勉学支援金が給付される。昭和49年に始まった本事業は令和元年度末までに延べ1,153人の沖縄青少年に支援を行い、512人が卒業し習得した資格や技術を活かして幅広い分野で活躍している。

★高良義雄基金の増額

7月30日、勉学支援金「高良義雄基金」を設置している高良義雄さんから指定寄付として100,000円が寄せられた。これにより「高良義雄基金」は3,900,000円となり、「働きながら学ぶ沖縄青少年支援基金」の総額は67,869,000円となった。

★第30回金城芳子基金 募集案内

『金城芳子基金』は、沖縄女性の地位向上のために献身された金城芳子さん(1902−1991)の強い意志により、そのご遺族によって1992年に当協会に設置され、沖縄女性のため、社会的に意義のある活動や調査研究を行う個人及び団体・グループに助成している。

第29回までに29の個人・団体に助成を実施した。第30回の応募締切は2022年3月31日。当日消印有効。

※詳細は、「公益財団法人沖縄協会」のホームページより

お知らせ

★当協会東京事務所の移転

当協会東京事務所は左記の住所へ移転しました。

〒103−0001
東京都中央区日本橋小伝馬町17番6号シエスタ日本橋201
【電話番号:03-6231-1433】
【FAX:03-6231-1436】

★沖縄平和祈念堂 改修工事に伴うご寄付のお願い

開堂から43年を迎えた沖縄平和祈念堂では、現在、経年劣化による改修工事を頻繁に実施しております。今後、さらに工事の必要が考えられますので、多くの皆様に諸経費に対するご寄付を賜りますようお願い申し上げます。ご連絡いただきましたら、ゆうちょ銀行専用振込票を送付させていただきます。

沖縄平和祈念堂では、沖縄県が作成した「新型コロナ感染症感染防止対策チェックシート」を実施し、「感染防止徹底対策宣言ステッカー」を取得しています。

沖縄平和祈念堂美術館

沖縄出身画家紹介⑩

宮城 健盛 作 港への道 F60

宮城健盛 大正4年生・沖縄県

画歴
東京美術学校卒。元琉球大学教授、旺玄会功労賞、沖縄タイムス芸術選賞奨励賞・同大賞、沖縄タイムス文化功労賞。沖展会員、旺玄会常任委員、沖縄旺玄会。

制作意図
この絵は、港町シリーズの中の一作品です。私は、明るく活気に満ちて広がるビル街をみつめるとき、希望が大きく広がる思いがします。各様の美しい建物の集団、変化の中に統一された光景を人工的な美として捉える。然し目に写ったままの形象は描きません。それは自ら感得した情趣を表現するからです。画面は明るく広がりを表すために平明化したつもりです。

額サイズ:縦×横×厚【153×120×8.5 ㎝】

● 2021年11月発行
● 発行/公益財団法人 沖縄協会(沖縄平和祈念堂) 〒901-0333 沖縄県糸満市摩文仁448-2 TEL.098(997)3011 FAX.098(997)2678
〈HP〉http://www.okinawakyoukai.jp